



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

UAE : UAE の多角化戦略 (ガルフ・リサーチ・センター研究員の寄稿)  
(26日付ハリージュ・タイムス紙)

1. 先週、UAE 政府はフジャイラ首長国において、新たな海軍基地の運用を開始した。同基地の新設は、重要な石油輸出航路として需要が高まっているオマーン湾の防衛能力を高めるためと見られ、過去数年 UAE 政府が取り続けている長期的多角化戦略の一環と捉えられる。
2. サウジアラビアは、80年代からアラビア湾および紅海の両沿岸で港湾開発を行い、貿易航路の多角化に取り組んだ。両沿岸がパイプラインで結ばれることで、その優位性は特に湾岸戦争時の石油輸出において発揮された。ある周辺国やテロリストによるホルムズ海峡の航行妨害が湾岸の産油国の懸念となっている現在、UAE も自国の地理的利点を活用し、重要施設とエネルギー供給を分散化して確実性を高めるべく取り組んでいる。
3. UAE 政府は、今年はじめ、フジャイラに石油備蓄基地と国内最大規模の水・発電施設を建設するよう決定した他、中国石油天然ガス集団 (CNPC) によるハブシャン油田 (アブダビ南西部) とフジャイラ港を結ぶ 400km の石油パイプラインの建設も進めている。このパイプラインが完成すると、石油タンカーがホルムズ海峡を迂回し、フジャイラ港から石油を輸出することが可能になり、石油輸送の安全性向上とコスト削減に繋がるばかりでなく、UAE 経済の危機管理能力を高め、外的圧力の耐性向上も期待される。
4. 輸出キャパシティの拡大以外にも、UAE のエネルギー政策では 2 点を重視している。1 点目は、MASDAR に代表される再生可能エネルギーや核エネルギー等の代替エネルギーの開発で、2 点目は、原子力発電所の建設で韓国企業と手を組んだことに見られる西側諸国への依存からの脱却である。
5. 外交・防衛政策においても同様の多角化戦略の傾向が見られる。昨年の中東海軍の基地設立は、従来の米国に頼りきりの防衛政策からの脱却であるし、武器調達も供給先を米国のみから仏国や英国にも拡大しつつある。いずれの多角化戦略も、国家の持続的発展を見据えての長期的視野に立ったもので適切なことである。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799